



百年の彩りを  
次の100年の  
輝きへ

# 八王子市まち・ひと・しごと創生 総合戦略 (平成27年度の実績)



平成28年10月

八王子市



## 目 次

第 1	「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要	1
第 2	八王子市の人口の現状	3
第 3	八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成 27 年度の実績	5
	政策軸① ひとづくり	
	政策軸② しごとづくり	
	政策軸③ まちづくり	
	政策軸④ 本市の魅力の発信	
第 4	外部有識者等からの意見	18



## 第1 「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要

### 1. 総合戦略の位置づけ

総合戦略では、まず「人口ビジョン」として、本市の人口動態や産業構造等の分析、学生や若年層に対するアンケート、市政世論調査から本市の置かれている現状を分析し、目指すべき将来展望を示している。そのうえで、目指すべき将来展望の実現を目指し、八王子ビジョン 2022 及びアクションプランの施策展開を前提に、人口減少問題と向き合うために必要な施策を、政策軸ごとにパッケージ化した。

### 2. 総合戦略の構成

#### (1) 基本方針

##### ①まち・ひと・しごとの好循環

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を創るという好循環を生み出すこと、それを支えるための「まちづくり」を進める。

##### ②交流人口の増加

交流人口を増加させることにより、本市の魅力を感じ、ライフステージの様々な局面で本市に居住するという選択肢を考えてもらえる取組を進める。

#### (2) 4つの政策軸

①ひとづくり 市民力の源泉である市民活動の支援や、将来を担う子どもたちがいきいきと成長し、就労・結婚・出産・子育ての希望が叶うまちの実現に資する施策をパッケージ化

②しごとづくり 雇用の場を創出するという視点に立ち、地域産業の支援、企業立地の促進、新規創業の支援に取り組むとともに、学生の地元企業への就労支援策などをパッケージ化

③まちづくり 地域に賑わいを創出するという視点に立ち、本市の「顔」である中心市街地の活性化や人口減少社会を想定した空き家対策や沿道集落の活性化などをパッケージ化

④本市の魅力の発信 交流人口の増加に直結する、本市の特性を活かした地域ブランドの創出や観光産業の振興、効果的な魅力の発信といった施策をパッケージ化

※ その他、行政裁量の拡大に向けた取組として、特区（構造改革特区、国家戦略特区）制度の活用、地方分権の更なる推進、都市間連携の推進に取り組む。

### 3. 計画期間

平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間。

### 4. マネジメントサイクル

総合戦略では、政策軸ごとに政策パッケージを示し、それぞれ重要業績評価指標（Key Performance Indicator : KPI）を設定し、これをもとに毎年検証し、改善する、いわゆる PDCA

サイクルを確立し、進行管理を行っていく。

なお、総合戦略策定にあたっては、平成 27 年 6 月に産業界、八王子市、大学、金融機関、労働者、メディア（産官学金労言）に公募市民を加えた、「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会」を設置し、広く意見を聴取した。総合戦略の PDCA サイクルを運用していくにあっても、本懇談会の場での議論を参考にしていく。

## 5. 平成 27 年度の実施状況

本報告書では、総合戦略に掲げた政策軸ごとに、平成 27 年度の数値目標及び KPI の実績値を示し、分析・評価を行った。また、八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を平成 28 年 10 月に開催し、この結果について意見を聴取した。

この取組を踏まえ、引き続き本総合戦略の着実な推進を図っていく。

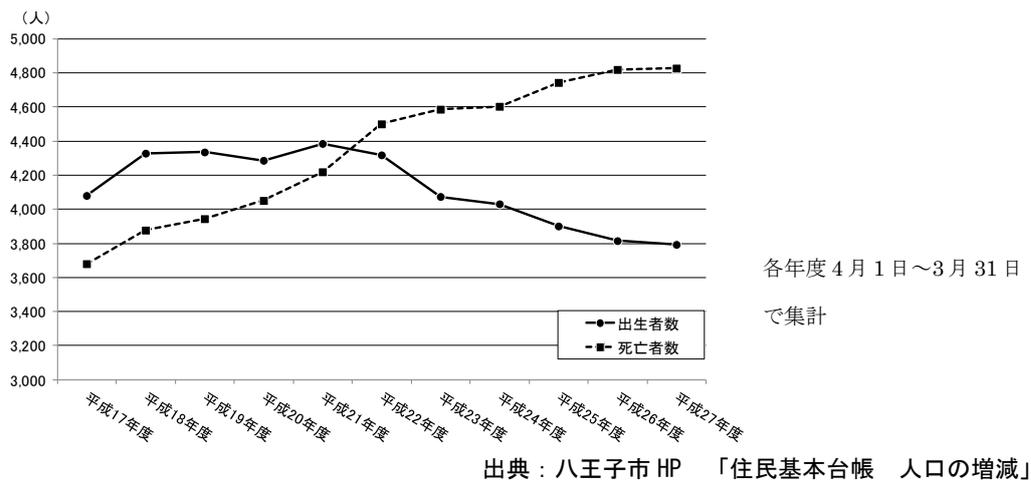
## 第2 八王子市の人口の現状

### 1. 住民基本台帳に基づく人口の増減

#### (1) 自然動態

本市では、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」へと転じて以降、死亡者数と出生者数の差は年々大きくなっており、平成27年度には出生者数が3,793人、死亡者数が4,827人で、減少幅は平成26年度から微増して1,034人となった(図表1)。

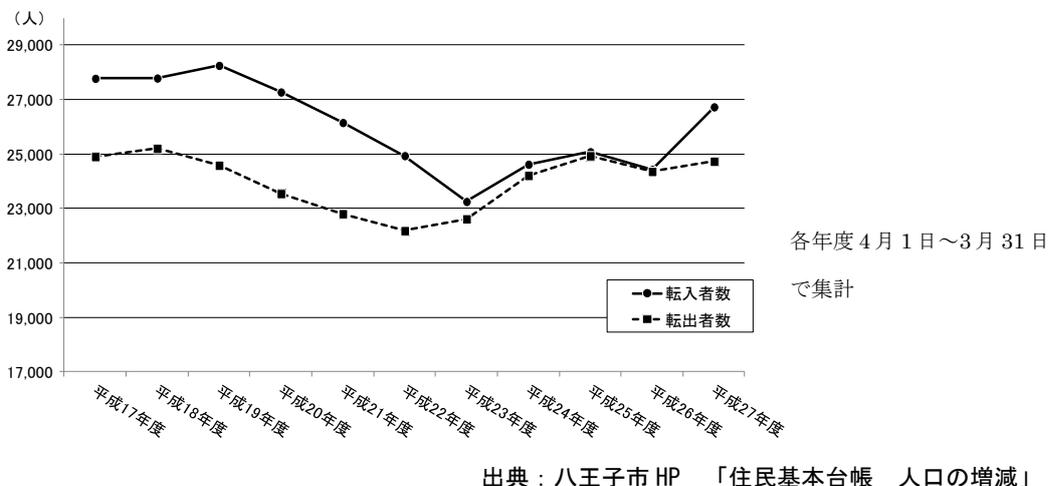
【図表1】出生者数・死亡者数の推移



#### (2) 社会動態

本市の社会動態として、平成22年度までは転入者数が転出者数を大幅に上回っていたが、平成23年度にその差が大きく減少し、平成26年度には転入者数と転出者数がほぼ均衡していた。しかし、平成27年度は転入者数が転出者数を上回り1,998人の社会増があった。(図表2)。

【図表2】転入者数・転出者数の推移



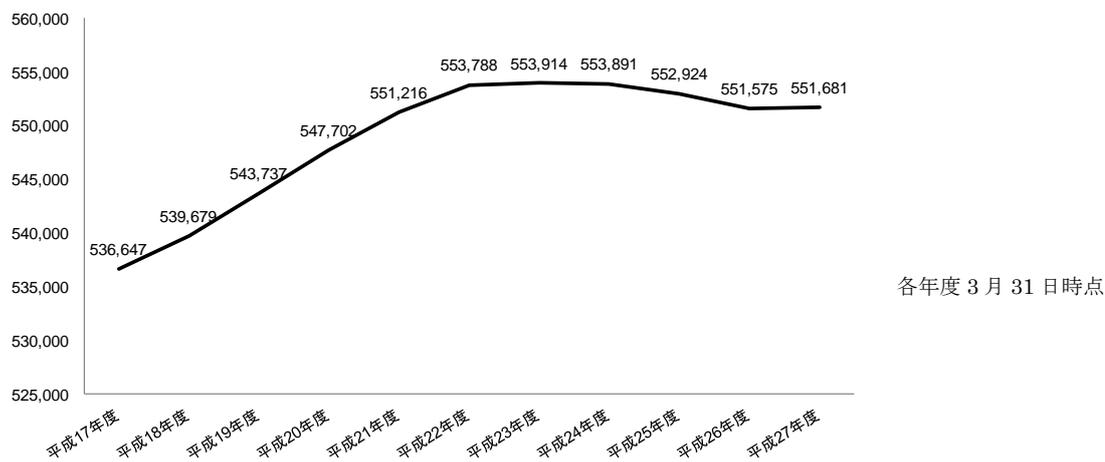
※平成24年7月9日に住民基本台帳法の一部改正が行われ、住民基本台帳人口に外国人住民も含まれることになったが、人口増減の経年比較をするために、平成24年度の転入者数から、増加となった外国人住民の人口(8,932人)を除いている。

## 2. 人口の推移

### (1) 住民基本台帳人口

住民基本台帳における本市の総人口は平成 23 年度まで増加が続き、平成 24 年度から減少傾向となっていたが、平成 27 年度には再度増加に転じている（図表 3）。

【図表 3】人口の推移（住民基本台帳）



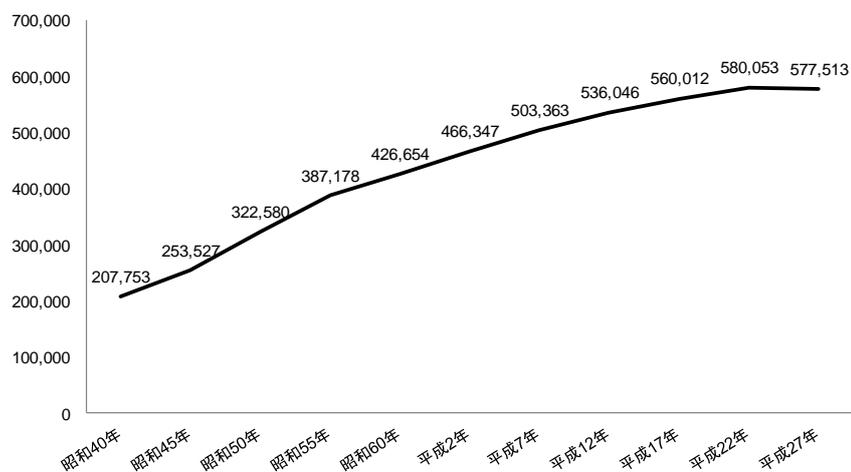
出典：住民基本台帳データをもとに作成

※平成 24 年 7 月 9 日に住民基本台帳法の一部改正が行われ、住民基本台帳人口に外国人住民も含まれることになったが、人口増減の経年比較をするために本表では外国人住民の人口を除いている。

### (2) 国勢調査人口

国勢調査における本市の総人口は平成 22 年まで増加が続いていたが、平成 27 年国勢調査（確報値）では 577,513 人と平成 22 年と比較して 2,540 人減少した（図表 4）。

【図表 4】人口の推移（国勢調査）



出典：国勢調査をもとに作成

### 第3 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成27年度の実績

#### 【政策軸① ひとつづくり】

数値目標	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
近隣や地域と交流やつながりがあると感じている市民の割合	48.9%	64%	47.7%	価値観の多様化や近隣関係の希薄化などにより、町会・自治会への加入率が低下傾向にある。また、地域で活動している市民団体の情報を入手する場が少ない。	町会・自治会の加入促進を進める取組として、本庁舎や各事務所などに周知用のポスター・幟旗を設置し、地域の情報を発信できるウェブサイト「はちコミねっと」を開設した。
安心して子育てができていると感じている市民の割合	39.6%	48%	33.9%	平成27年度の新たな取組として、子育てひろばでの支援や情報提供のさらなる充実を図っていくため、貸し出し用育児書の充実を行った。また、子育ての喜びが感じられるよう、情報提供の充実を図り、安心して子育てができる環境を整えた。しかし、子ども・子育てに関する情報が広く市民に行き届いていない状況であった。	引き続き、保育環境の整備・拡充による待機児童対策や妊娠期からの切れ目ない支援体制の充実など、子ども・子育て施策を推進していくほか、SNS（Facebook・twitter）を活用するなど、子育て情報を発信する媒体にも創意工夫を凝らし、保護者に伝わる発信を行っていく。
子どもたちに対し適切に教育できる環境となっていると感じている保護者の割合	79.8%	82%	80.1%	指標は、平成27年度学校評価のうち、保護者向けアンケートにおいて「学級経営：子どもの学級は落ち着いて学習できる雰囲気である。」を集計したものの。教員の指導力向上のための研修や学校に対する人的支援を継続的に行ってきたことなどから、微増ではあるが基準値を上回る結果につながったものとする。	引き続き、教員の指導力向上のための研修や学校に対する人的支援など継続的に行っていく。

#### 《重要業績評価指標（KPI）》

##### （1）市民活動支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
町会・自治会加入率	60.8%	67.6%	60.1%	価値観の多様化や近隣関係の希薄化などにより、町会・自治会への加入率が低下傾向にある。	加入促進について、引き続き町会自治会連合会と連携し、イベントにおける周知に努めるとともに先事例の調査を行った。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
市民協働でまちづくりをすすめていると感じている市民の割合	50.3%	62.6%	51.5%	地域のコミュニティ活動への関心が高まってきたことや、パブリックコメントなどの市の取組が評価されてきたことにより、数値が上昇したと考える。	地域での様々な活動や地域情報など、市民や団体自らが発信できるウェブサイト「はちコミねっと」を開設し、市民活動の周知を図った。
大学と市との連携・協力事業数	203件	272件	244件	地域貢献・地域連携について、市と大学の双方で取組を強化していることから、連携・協力実績が増加している。	新たに包括連携協定締結校との間に連絡会を設置し、連携・協力事業の掘り起こしに努めた。

## (2) 男女共同参画

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現している市民の割合	35.9%	38.5%	39.8%	ワーク・ライフ・バランスについて理解を深めるための講座の実施やホームページ等による情報提供を継続して実施してきた結果、ワーク・ライフ・バランスについての意識は少しずつ市民に浸透してきていると考える。	引き続き、講座の実施やホームページ等による情報提供及び、学習支援・求職支援のための託児サービスを実施した。

## (3) 次世代がいきいきと成長し、就労・結婚・出産・子育ての希望がかなうまちの実現

### ① 次世代育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
赤ちゃんふれあい事業を実施する中学校数	—	38校	—	平成28年度からの実施を目指し、その準備として、中学校への事業説明、アンケートを行った。	平成28年度10回実施予定。8月末時点で1回実施済。
放課後子ども総合プラン一体型実施校数	30校	43校	31校	31校において、学童保育所通所児を含めたすべての登録児童が、地域の人とのふれあいや体験プログラムに参加できた。	引き続き、放課後に様々な体験活動に参加できるよう「一体型の学童保育所・放課後子ども教室」の更なる実施に向け、学校等に働きかけを行っている。
八王子若者サポートステーション進路決定者数	82件	100件	125件	広報でのセミナーの周知や出張相談会などを実施し、またハローワークとの連携を強化した結果、目標値以上の成果を出すことができた。	サポートステーションにおけるセミナー・講座の充実及び模擬店の企画・運営による就労トレーニングの実施を予定。

② 就労・結婚・出産・子育ての切れ目のない支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
はちおうじ就職ナビ掲載の中小企業等に就職した若者への奨励金交付認定者数	-	総計300人	89人	広報やHPのほか大学キャリアセンターなどに周知した結果、当初想定では80人としていたが、それを上回る結果となった。	引き続き、事業周知を行うと同時に掲載企業を増やし、事業の魅力を上向きさせる。
妊娠届出時の面談率	9.2%	13.2%	12.8%	妊娠届の提出場所として3保健福祉センターの認知度が低い。妊娠時の面談率向上のためには、母子健康手帳交付場所として3保健福祉センターの周知の工夫が必要。要支援者の早期発見のためには、妊娠届時だけでなく、妊娠早期に保健師・助産師の専門職が直接相談・支援できる機会をつくる。	平成28年4月より妊娠期支援事業を開始。保健福祉センターでの母子健康手帳交付を積極的に周知。全妊婦に対する妊婦面談を開始し、面談実施時「はちベビギフト」を渡し、面談率の向上に努めている。
ファミリー・サポート・センター年間活動件数	6,469件	8,206件	5,545件	説明会を毎月実施しているが、想定より会員登録数が増加しなかった。	開所時間の延長、土曜日開所及び受付時間の拡大を実施し、民生委員等に周知を図る。
子育てひろばの設置数	38か所	55か所	47か所	関係所管と連携しながら、保育施設等へ設置を促した。	子育てひろばの空白地域を優先しながら、配置を進めている。
保育所待機児童数	144人	0人	139人	新たに245人分の保育定員を確保したが、申込児童数の増により、待機児童数は基準値より5人減の139人となった。	民間保育所及び地域型保育事業の施設整備等を行い、引き続き定員増を図る。
学童保育所待機児童数	327人	0人	370人	新規施設を増設(1施設36人)したが、さらに上回る申請があったことから結果として待機児童が増加した。	平成28年9月時点で既存施設の改修を2か所行い、定数増員(58人)済。特に対策が必要な7か所の小学校に対し、安全で安心な居場所の提供事業を実施した。

③ 子どもと家庭を育むまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
「はち☆ベビ」登録者数の割合	8.8%	60%	28.4%	登録者数は、開設して1年であることもあり、まだ少ない状況である。	今後も、利用者の拡大に向け、若年層(子育て世帯)に向けた周知をさらに行っていく。また、メールマガジンの周知は、母子保健部門や医療機関等、関係機関と連携し、効果的に進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
子育て応援団 Bee ネット登録者数	440人	516人	<b>444人</b>	交流会や、大学の出前講座にて周知を図り促進したが、登録数は増加しなかった。	全体の交流会に加え、地区ごとの交流会等の機会を通じ、周知を実施する。その他、民生委員にも周知を図る。

#### ④ 配慮が必要な子どもと家庭を支える環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
発達障害児支援事業グループ活動の利用者数	838人	1,130人	<b>815人</b>	就学児の療育体制を精査した結果、不登校就学児が減少したこと等により、利用者は前年より微減となった。このことから、利用者は減少しているものの事業効果は上がってきていると言える。	新たに読み書きを指導する療育グループを開設し、利用者は増えている。
母子・父子自立支援プログラム策定件数	53件	60件	<b>53件</b>	平成27年度の新たな取組として母子家庭等就業・自立支援センター事業で就業支援事業を開始したが、周知不足もあり件数は伸びなかった。	母子家庭等就業・自立支援センター事業のパソコン講習会等の受講者をプログラム策定に繋げる取組を行う。
生活保護家庭における中学校卒業者の進学率	88.0%	95%	<b>91.9%</b>	子ども健全育成支援員を2名増員し、子どもたちへの生活環境への支援を含めた総合的な支援体制を充実させたことにより平成27年度目標を達成できた。	子ども健全育成支援員による支援に加えて、無料学習教室の会場数の拡大(6か所から8か所)及び支援内容を充実(教室ごとの講師数を増員)させて事業を実施する。

## 【政策軸② しごとづくり】

数値目標	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
市内の産業活動が活発に行われていると感じている市民の割合	23.7%	35.2%	<b>22.9%</b>	市政世論調査では、「あまりそう思えない」または「思えない」との回答が全世代平均である46.1%と比較して60～64歳で56.3%、65歳以上で50.0%と、高齢者に多く見られる。	本市の産業活動について、高齢者にもわかりやすい情報発信を行っていく。
法人市民税の伸び率（国の伸び率を1とした場合の市の伸び率）	0.95	1.05	<b>1.01</b>	景気が回復基調となり、法人の収益率が上昇したことによる。	効果を維持していくため、企業誘致を進めていく。

### 《重要業績評価指標（KPI）》

#### （1）地域産業の競争力強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
中小企業新商品開発認定制度における認定数（累積）	15件	50件	<b>22件</b>	初年度（平成26年度）に比べると認定件数は15件→7件となったが、目標値を達成するために必要な認定実績数を残すことができた。	8社8商品を8月末に認定。カタログ作成、庁舎内展示、産業交流展への出展などにより周知を行う。
企業立地支援制度により誘致した企業数（累積）	84件	119件	<b>94件</b>	市内小規模事業者立地奨励金の活用が促進されたこともあり順調に推移している。立地形態については、市内移転や拡張が多い。	都、UR、不動産業者と連絡を密にした周知活動を行っているほか、市内企業への操業環境に関するアンケート調査を実施し現状把握を行っている。
中小製造業の市内事業所数の伸び率	市 0.92 (全国 0.96)	全国の伸び率を0.02上回る	<b>市 0.99 (全国 0.97)</b>	事業所数の増加には至らなかったが、中小企業の後継者育成や技術力向上支援などにより全国に比べて事業所数の減少傾向は抑えられている。	中小企業の操業を継続するため、サイバーシルクロード八王子による後継者育成塾や先端技術センターによる技術支援、さらに産学連携による技術力向上支援を実施している。

(2) 本市の特性を活かした産業の支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
農業産出額	26億円	28億 6880万円	<b>25億</b> <b>7000万円</b>	農家の高齢化や担い手不足が原因で農業産出額が減少傾向にある。  【参考 農林業センサスデータ】 農業就業人口、平均年齢 平成17年 1,153人、62.3歳 平成22年 854人、65.5歳 平成27年(速報値) 695人、66.2歳	農地バンク制度等により、生産基盤である農地の流動化を積極的に進め、農業産出額の向上に努める。
道の駅八王子滝山の年間売上高	9.3億円	10億円	<b>9.2億円</b>	来場者数が平成26年度949,359人と比較し平成27年度904,411人と減少したこともあり、基準値を下回った。	来場者数を増やすため、イベントの増加や、新聞折り込みの部数を増やすなどの取組を実施する。

(3) 新たな産業分野の創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
新設事業所数の伸び率	市 0.77  (都 0.84)	都全体の伸び率を0.07上回る	<b>市 2.96</b>  <b>(都 3.49)</b>	サイバーシルクロード八王子の事業である創業塾の塾生の傾向を見ると、近年、飲食サービス系での創業を目指す指向が強い。そのため、飲食サービス系での新設事業所数の伸びの影響が大きいと想定される。近年のニーズを踏まえ、サイバーで飲食系に特化する創業スクールの実施に取り組んでいるものの都の伸び率には届いていない。	サイバーシルクロード八王子の事業を支援し、異業種間連携の取組を実施。また、新たな起業家の創出に向けて専門家による起業家への伴走支援を実施する。
中小企業新商品開発認定制度における認定数(累積) 【再掲】	15件	50件	<b>22件</b>	(9頁参照)	

(4) 就労支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
市のかかわる就職支援活動による採用者数	752人	952人	<b>522人</b>	実績値の算出方法を、市が直接的に行った就職支援に限定する形で見直したため、大幅な減少となった。なお、基準値である平成26年度の実績を、見直し後の方法により算出すると353人であり、これと比較すると平成27年度の事業実績は向上している。	引き続き関係機関と連携して求職者の採用支援を行う。
はちおうじ就職ナビ掲載企業数	107件	150件	<b>153件</b>	前年の1.5倍であり、すでに目標値を上回る結果となった。	引き続き、企業へ登録・掲載依頼を行う。

【政策軸③ まちづくり】

数値目標	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
八王子の景観への市民評価度	49.5%	56%	<b>49.8%</b>	自然、歴史や文化が活かされた景観と感じる割合が年々増加しており、平成29年度の目標値である50%を達成できる見込みである。	屋外広告物条例と景観条例及び景観計画とを連携させ、良好な景観形成を推進するため、景観計画に定める重点地区における屋外広告物の地域ルールの方針を進める予定。
住み続けたいと思う市民の割合	88.6%	91%	<b>88.5%</b>	計画的なまちづくりにより暮らしやすい地域づくりを行うため、平成27年度には「八王子医療刑務所移転後用地活用計画」、「八王子市土地利用制度の活用方針」、「中心市街地まちづくり方針(市街地総合再生基本計画)」、「用途地域等の指定方針・指定基準」、「高尾山口駅周辺地区都市計画方針」の策定・改定を行い、まちづくりの方向を示した。また、各計画等の策定にあたってはパブリックコメント手続きや素案説明会を実施するとともに、これらの実施にあたっては広報・HPのほか、SNS(Facebook・twitter)での周知にも努めた。しかしながら、これらは土地利用等に関する方針・計画であり、本方針・計画を活用した官民双方のまちづくりが着実に展開され、市民が成果として実感するまでには時間がかかるため今回の調査結果になったと考えられる。今後も計画に基づき継続的に施策を展開していくことが必要である。	平成28年度には「低炭素都市づくり計画」、「自転車利用環境整備計画」を策定するほか、策定済みの各計画等に基づき、まちづくりに関する各事業を実施していく。また、都市計画マスタープランの実現に向けて新たな土地利用を誘導するため、市内全域の用途地域等の見直しを行う。周知等については、都市計画部の専用Facebookを立上げ、説明会等のまちづくりに関連する情報の発信ツールを多様化した。

《重要業績評価指標(KPI)》

(1) 中心市街地活性化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
中心市街地歩行量数	951,783人	999,373人	<b>979,015人</b>	前回調査(平成26年度)と比べ、マンション建築数の増加に伴い居住者が増えたこと等により、休日・平日ともに全体数としての増加傾向が見られる。	平成28年度の調査は12月4日(日)・6日(火)に実施予定。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
中心市街地で開催される年間イベント数	38件	43件	45件	近年新たに開催されるようになったイベントが定着した。また、朝市等の新たな小規模イベントが開催されるようになった。	中心市街地での新たなイベント開催希望者に対して関係機関の紹介をする等の支援をしており、今年度も多くのイベントが開催される。
まちゼミ参加者数	211人	317人	312人	認知度が高まったことにより、参加者数が増加傾向にある。	平成28年度は、10月、3月に開催予定。

## (2) 良好な都市環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
空き店舗改修費補助金活用により出店した店舗数(累計)	8件	23件	13件	認知度が高まったことにより、問い合わせ件数も増えている。	平成28年9月現在、2件交付決定済み。
空き店舗改修費補助金活用により出店した店舗の営業継続率	100%	100%	100%	事業が浸透し、適切な補助が行われている結果であると評価できる。	平成28年9月現在、継続中。
市内の空き家率	10.3%	基準値 (10.3%) 以下	10.3% (H25実績)	実績値は直近のデータとして平成25年度に実施した住宅土地統計調査により算出しているため、次回は、平成30年度に実施予定である住宅土地統計調査まで変動はない。	空き家の利活用の促進のため、空き家所有者に対し、改修費の一部を補助する空き家利活用促進整備補助事業を実施。

## (3) 公共交通対策の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
路線バス・はちバスの乗車数	14.1万人/日	14.7万人/日	15.3万人/日	既に平成31年度の目標値を超えており、今後もより充実した公共交通となることを目指す。	路線バス等がより利用しやすくなるよう公共交通計画を策定している。
地域公共交通活性化協議会の開催回数	2回	2回	3回	現在策定中の公共交通計画の策定に伴い、計画をより充実した内容にするため、目標値より開催回数を増加し議論を深めた。	今年度3回の開催を予定している。

(4) 商業の振興

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
「あきんど講座」実施回数	4回	6回	4回	各種団体の会合等に直接出向き説明を行うなど、周知を図っているものの、平成27年度は各種団体からの申し込みが少なかった。	引き続き周知を強化していくとともに、加盟店舗の定休日がまちまちであり調整が難しい状況を踏まえ、実施方法について検討していく。
商店街が実施するイベント数	58回	60回	59回	事業の周知を図った結果、実施回数は59回となった。	平成28年度は目標値を上回る61件の申し込みがあったが、9月末時点で2件の未実施事業がある。

(5) 地域特性に応じたまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
こども科学館と大横福祉センターの連携事業延べ回数	—	3回	2回	親子(特に父親)が多く来館する夏休みの時期に開催することで、壮年期を対象に健康づくりの啓発ができた。	こども科学館来場者に対し健康づくりのきっかけとして「親子で知ろう・からだ測定会」を2回開催した。
こども科学館の利用者数	85,181人	100,000人	82,180人	館内設備修繕のため平成27年12月1日から平成28年1月15日までの1ヵ月半休館したため入館者が減となった。	平成28年10月から展示物改修、施設の大規模改修の休館に入り、平成29年7月リニューアルオープンの予定。
大横保健福祉センター利用者数	47,727人	94,600人	77,646人	平成27年6月のリニューアル開館後、利用者数は一定の伸びを見せたが、今後は利用増加に向けた更なる周知が必要である。	まちなか避暑地の拡大実施(イベント等を含む)や大横保健福祉センターまつりの開催を通じて利用の周知を図る。

【政策軸④ 本市の魅力の発信】

数値目標	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
市政情報が適切に分かりやすく提供されていると感じている市民の割合	35.6%	51%	41.5%	広報紙を始めとする情報発信において、文章表現やレイアウトなどの改善を続けてきた。また、平成27年度からは市長記者会見の開催回数を年10回に増やし、より積極的な情報発信に努めてきたことなどが、数値改善の一因であると考えられる。	職員の広報活動に対する意識を高めるとともに、広報技術を向上させることを目的に、「広報活動ガイドライン」の策定を進めている。また、市ホームページをリニューアルし、見やすく、必要な情報を探しやすい内容にするるとともに、効果的な情報発信を行うための仕組みを構築する。
観光客数	714万人	824万人	712万人 (H26実績)	目標設定時点で実績値を得ることが出来なかったことから、基準値は、平成25年度実績値(707万人)に基づく平成26年度観光客数の推計値としている。今回確定した平成26年度実績値では、平成25年度実績値と比べ5万人増加している。これは、市外での観光PRや市内観光案内所での情報発信によるものと考えられる。また、平成27年度も増加傾向を維持するため、滝山地域において観光資源の創生に取り組むなど、観光施策の充実を図った。	市内の魅力発信や集客力の高いイベント(体験学習フェスティバル・フォトロゲイニング等)などの開催を予定しており、観光施策の充実を図っている。
八王子市の良さを他人に伝えるなどの行動を起こしたことのあがる市民(20~30代)の割合	20代: 61.9% 30代: 65.2%	20代: 70% 30代: 74%	20代: 53.1% 30代: 63.9%	同指標については、20~30代に限らずほとんどの年齢・性別で低下がみられるが、この指標については平成27年度以前のデータがないため、経年で傾向を判断することが難しい。この状況を踏まえ、市民ヒアリングを通じた具体的な本市のイメージ把握・分析や、更なる本市のPRに努めていく必要がある。	平成28年度は、以下の事業を実施し、本市のイメージアップや交流・定住促進を図る。 ・シティプロモーション特設サイトの開設 ・プロモーション動画の制作(3本) ・市民ライターFacebookの運営

## 《重要業績評価指標（KPI）》

### （１）本市の特性を活かした地域ブランドの創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
文化財関連施設の利用者数	77,798人	82,000人	79,353人	平成26年度の実績値は基準値である平成25年度比1,555人増加した。 平成27年度の新たな取組として、八王子城跡においてガイドダンス施設に復元したレースガラスを設置したほか、曳橋架替工事が完了した。この結果、ガイドダンス施設の利用者数は平成26年度50,197人に対し平成27年度54,234人と約4,000人増加している。 また、郷土資料館では特別展・コーナー展・企画展や体験学習・講座を実施することで、市民の生涯学習への要望に応え、結果として減少傾向にあった年間入館者数が平成26年度20,369人に対し平成27年度21,588人と増加へと転じた。	八王子城跡では、文化財見て歩きや子ども手作り甲冑教室といった親子で歴史を学ぶイベントを引き続き実施。 また、郷土資料館では市民の学習機会の提供のため、引き続き、特別展・企画展・講座・体験学習を開催する。
水辺に親しめる場所の数	132か所	139か所	136か所	元八王子町(南大沢川)等において生態系豊かな水辺づくりに向けた整備を行い、前年度比4か所増加した。	水辺づくりの推進に向け、泉町湧水群水路整備を実施する。
八王子産の農産物を常に意識して購入している市民の割合	16.7%	46%	15.7%	実績値が基準値を下回っている現状を踏まえ、更なる八王子産農産物のPR活動に努めていく必要がある。	八王子産農産物の普及を図るため、道の駅八王子滝山の出張販売を行う。

### （２）観光産業の振興

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の実績状況
観光客数 <b>【再掲】</b>	714万人	824万人	712万人 (H26実績)		(15頁参照)
中心市街地で開催される年間イベント数 <b>【再掲】</b>	38件	43件	45件		(13頁参照)

(3) 効果的な魅力の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (31年度)	実績値 (27年度)	実績値に対する分析・評価	平成28年度の取組状況
住み続けたいと思う市民の割合 <b>【再掲】</b>	88.6%	91%	<b>88.5%</b>	(12頁参照)	
MICE 誘致成功件数 (推進組織がプロデュースしたもの)	—	7件	—	平成29年4月の新組織立ち上げに向け、準備中である。	平成29年度以降の誘致に向けた商品開発、ネットワーク構築、ガイド制作等を実施する。

## 第4 外部有識者等からの意見

平成27年度の取組に対し、産業界、八王子市、大学、金融機関、労働者、メディア（産官学金労言）、公募市民という様々な立場からの意見を募るため、「八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会」を開催した。

### <開催日>

平成28年10月7日

### <主な意見>

- ・保育所待機児童対策については良い傾向に進んでいる。今後も重点的に取り組んでほしい。
- ・道の駅の利用者を増やすため、取扱い商品の見直しを含めた取組が必要。
- ・「新設事務所数の伸び率」の指標において、比較対象としている東京都の数値については、単純な比較に留まらず、しっかりと要因分析を行うことが必要。
- ・圏央道の開設により創業者も増えていることから、都心や都外の他地域から企業が進出したいと思うような情報発信が必要。
- ・住宅に対するニーズは人それぞれであり、新築ではなく空き家を求める人もいる。空き家のマッチングをどのように行うべきであるか、もう少し踏み込んで考えることが必要。
- ・まずは八王子に来てもらうための施策が必要。八王子に来てもらい、良かったと思ってもらうことが必要。
- ・市外から来る人にとって八王子が遠いというイメージがあるのであれば、それをうまく生かして市内で一日が完結するという形がよいと思う。来てもらった人に市内を色々まわってもらい、集約できるまちになってほしい。
- ・「観光」と「定住」の間にある「滞在」の段階にある人に、市の魅力を感じてもらうことが大切。
- ・市の取組や、市の魅力に関する情報の発信が上手くいっていない。情報発信手法に工夫が必要。

### <懇談会参加者>

- ・芦川 正明 (京王電鉄株式会社 沿線価値創造部企画担当課長)
- ・石川 敏之 (公募市民)
- ・伊藤 史子 (首都大学東京 都市環境学部都市環境科学研究科教授)
- ・大島 紀代 (特定非営利活動法人からまつ 常務理事)
- ・落合 隆 (八王子商工会議所 専務理事)
- ・栗本 正男 (町会自治会連合会 地区連合会長)
- ・佐々木 健 (朝日新聞 立川支局長)
- ・高橋 新也 (公募市民)
- ・中庭 光彦 (多摩大学 経営情報学部事業構想学科教授)
- ・沼崎 明大 (多摩信用金庫 主任調査役)

(五十音順・敬称略)

平成 28 年 10 月  
発行／八王子市  
編集／都市戦略部 都市戦略課

〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号  
直通：042-620-7335 FAX：042-627-5939  
E-mail：b400100@city.hachioji.tokyo.jp